

# 温暖化対策で まちの再生を

## ～最北端から最先端へ～

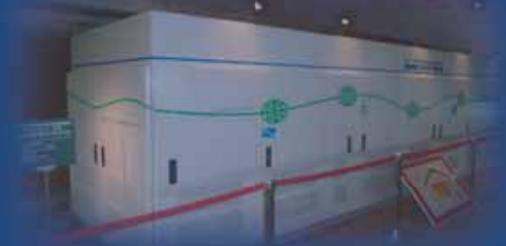
稚内上空から見る市街地と  
利尻・礼文・サロベツ国立公園



日本最北端のまち  
**稚内市**  
北緯45度24分



～水電解方式の燃料電池システム～



日本最北の街、稚内は古くから「漁業のまち」として発展してきました。しかし、200海里規制を境に漁獲高は激減、漁業は衰退の一途をたどり、近年では急速な過疎・高齢化に苦しんでいます。こうした人口流出、中でも特に若者たちが生まれた街を後にする理由は、都会への単なる憧憬ではありません。その最大の要因は生活基盤を支える雇用がないということです。

稚内を再生するためには、人々の雇用が満たされる環境を作る必要がある、そのためのまちづくりを市民の手によって進めようと、市内の企業・団体、市民、そして行政を巻き込んで平成17年に立ち上げたのが、「稚内新エネルギー研究会」です。

「稚内再生」の原点として、我々が着目したのが日本最北端の地に吹く「風」です。風力は、地球温暖化対策の1つとして、全世界においても積極的に活用が進むエネルギー資源であり、今後その可能性が大きく期待されるものでもあります。当研究会では、こうした動きの中で、まちの再生の道筋を、風力利用を原点として自然エネルギーと新エネルギーの先進的かつ積極的な導入に見出そうと考えました。

キーワードは「最北端から最先端に！」全国に例を見ない稚内の壮大な「温暖化対策によるまちおこし」の挑戦がここから始まったのです。

## 新エネルギー最先端都市をめざして

### 風と燃料電池で築く 温暖化対策最先端のまちづくり ～日本最北端の燃料電池実用システム～



風で起した電気で水を分解し水素を取り出し、その水素を燃料電池に供給することで、熱・電気を安定的に得る…。我々はこの夢のようなシステムを市民憩いの場である稚内公園ゲストハウスにて現実のものとなりました。現在は、このゲストハウスを「新エネルギーサテライト」と命名し、小中学生の環境総合学習や、市民に広く開放しています。

### 大規模太陽光発電を 稚内の大地で ～NEDO技術開発機構による実証試験のパス～



日本初のメガワット級大規模太陽光発電の誘致にとりくみ、平成18年にそれを現実のものとなりました。我々は、こうした新エネルギー導入によるCO<sub>2</sub>削減はもちろん、売電益等を基金とした市民による更なる温暖化対策推進をも目標としています。この大規模太陽光発電は、市民を巻き込んだ温暖化対策最先端都市 稚内のまちづくりの一步ともいえます。

### 地球環境を考える 市民のまちを目指して ～風のがっこう稚内～



「温暖化対策によるまちおこし」を進めていく上では、ひろく稚内市民に温暖化対策への関心を持ってもらうことが必要です。そこで、温暖化対策に貢献できる情報発信の拠点として、「風のがっこう稚内」を設立しました。地球環境を考える市民のまち「稚内」を目指して、温暖化対策・新エネルギー、そして稚内の可能性を発信しています。

～燃料電池システムを使ったエコ足湯～



～北のてっぺん緑化プロジェクトに参加する市民～



私たちが目指す稚内は、単なる見物客が訪れるだけの新エネルギーモデルタウンではありません。新エネルギーを導入することだけが最終の目的でもありません。新エネルギー関連産業が地域に根付くことこそがわれわれの目的なのです。雇用が生まれれば、人は自然に戻ってくる、そして、それが地球環境・温暖化防止に貢献する仕事であれば働く誇りと喜びが生まれるでしょう。私たちが目指すまちづくりは、ここに住む人々が「地球環境に優しい暮らし」と「心の豊かさ」を実感できる新エネルギー最先端都市としての地域の再生なのです。

今、日本最北端のまちがこんな夢を抱いて動いていることを、お伝えしたいと思います。

～稚内公園から望む市街地～

